
開会挨拶

武田信照

〈愛知大学学長〉

今日は台風接近という大変生憎な天候になりましたけれど、海外から来学されている諸先生もいらっしゃると思います。愛知大学国際中国学研究センター、我々はこれを ICCS と略称で呼んでおりますけれども、その ICCS が主催する国際シンポジウムを予定通り開催させていただくことにいたしました。昨年度に引き続く今年度のシンポジウムは、10月に今日から2日間、11月に13日と14日の2日間、計4日間にわたってここ愛知大学車道校舎のコンベンションホールで開催されます。今年は明日霞山会との共催による特別講演会も組み込まれております。このシンポジウムの開催にあたって国内外で中国研究の分野で精力的に活躍されている多数の諸先生が報告者、パネリストとしての役割を快くお引き受けいただきました。大学を代表いたしまして、厚くお礼を申し上げます。また、本日は台風接近という厳しい天候にも関わらず、このシンポジウムのために足をお運びくださいました参会者の方々の熱意に対しても心より敬意を表する次第であります。

ICCS は一昨年世界最先端の研究教育拠点の形成を支援する21世紀 COE プログラムに採択され、文部科学省から資金的にも重点的な支援を受けております。この国際シンポジウムは、ICCS のメインの事業の一つであります。今一つの柱となる事業は、若手中国研究者を養成するという事業でございますけれども、これにつきましては北京の中国人民大学、天津の南開大学との間に大学院博士課程を受ける二重学籍、二重学位の制度をこの4月からスタートさせたところでございます。3年間の博士課程のうち2年間は遠隔講義で、1年間は直接相手校で学ぶ、そういう制度でございます。すでにこの9月からは、中国の二つの大学から5名ずつ計10名の優れた院生が愛知大学で学んでおります。来年の4月からは愛知大学の院生が中国に参ることになっております。

さて、本日からの国際シンポジウムは、昨年と同様にメインテーマは、「激動する世界と中国」でありますけれども、政治、経済、文化、環境の各セッションのテーマは昨今の状況を反映する優れて現代的なテーマが取り上げられております。今日、明日、政治と文化のセッションでは、世界に吹き荒れるナショナリズムの問題を基軸として日中関係、民族と文化というテーマが取り上げられておりますけれども、このテーマを取り上げた意図、あるいは意義については後ほどセンター長である加々美先生の方から詳しい説明があるはずでございます。

深く掘り下げられた報告と活発なそして充実した質疑応答を通して、本シンポジウムが必ずや激動する世界の中での中国像を的確に把握する上で、大いに貢献するものと信ずるものであります。この国際シンポジウムは、来年以降も引き続き開催されますけれども、その積み重ねが現代中国学を構築する足場となるであろうことを、確信をしているところであります。本シンポジウムの成功を祈って手短ながら以上で開会の挨拶にさせていただきます。どうもありがとうございました。